

【H28.5.19 情報】

本年4月14日以降の一連の地震は、熊本県を中心に甚大な被害を及ぼし、多くの尊い命が失われました。

本協会では、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

また、多くの協会会員から被災地のホームに対し、励ましの声や物資提供、義援金等についてお心遣いをいただき、誠にありがとうございます。

特に東北の会員の皆様からは、東日本大震災のお返しに何かをしてさしあげたい、とのお話を頂戴しました。

本協会は、当初の地震発生以降、九州地域会員の被害状況を確認。熊本県内の会員3ホームのうち2ホームに対し、入居者生活支援制度を発動し支援を開始しました。制度の発動は、5年前の東日本大震災で36ホームを対象に物資輸送等を行って以来のこととなりました。

熊本市中央区の「グランガーデン熊本」(株式会社キューデン・グッドライフ熊本)では入居者が負傷され、またタイルの一部が落下しました。

熊本市東区の「御領庵」(有限会社シルバーライフサービス)では外壁が損傷し、断水が続いたため、会員のご協力を得て4月18日に物資輸送(生活用水 300リットル、清拭タオル 300枚、紙おむつ 600枚、おしり拭き 4,000枚、等)を行いました。

さらに、震源地に近い西原村の「くまもと長寿苑そよ風」(株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ)では、建物自体は使用できる状態でしたが、周囲の地面に亀裂が入り、内部は居室、共用部分すべてが手の付けられない状況でした。建物に併設していた短期入所施設はほぼ壊滅状態となりました。

同社は入居者を熊本市内の系列事業所に退避させましたが、ホーム再開の目途が立たなかったため、本協会は県外への一時避難を勧め、4月26日に協会事務局が現地入りし移送支援を実施しました。この際には、九州地域の多くの会員から受入れのご意向を賜り、あらためて九州地域会員の団結力を見る思いがいたしました。

その結果、28名の入居者のうち15名を残し、13名を福岡県内の以下の5ホームに受け入れていただきました。受入れホームの皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。

○セーヌ大牟田(5名受入れ ※会員系列の非会員ホーム)

○心・し・あ・わ・せ・楽園・春日(2名受入れ)

○ネオステージ博多(1名受入れ)

○はびね福岡野芥(1名受入れ)

○ベターライフ・ノア21(4名受入れ)

現在、くまもと長寿苑そよ風では水道が復旧しつつあり、建物の片づけ等が終わる6月に事業を再開する見込みです。

他方で、大分県や福岡県の会員ホームでは人的被害はないものの、建物にクラックが入った、内部の壁タイルが落下した、などのご報告もいただいております。

いまだ収束が見えず、予断を許さない状況が続いております。九州地域の会員の皆様におかれましては引き続き十分に

ご注意いただき、物資の不足やサポートが必要になった場合には、いつでも本協会までご一報いただきますよう、お願い申し上げます。

「くもと長寿苑そよ風」の状況



入居者の県外避難時の様子

